

# Newsletter

## vol.34



### 新年挨拶

#### 「やさしさを伝えあおう」

理事長 多田元

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

子どもセンターパオは12周年を迎えます。今年は子どもたちの生活支援をする現場のスタッフを補強して、しばらく休んでいたシェルター「丘のいえ」を再開し、ステップハウスとしての自立援助ホーム「ぴあ・かもみーる」との両輪でパワーアップする年になります。

皆様の変わらぬあたたかいご支援に心から感謝申し上げます。仲間のシェルター、自立援助ホームは北海道から沖縄、北陸金沢も加えて全国16カ所にひろがっています。ネットワークで支えあい、子どもたちと共に歩みたいと思います。

子どものパートナー、子どもの支援と言いながら、ふと自分をふり返ると、「子どものためにしてやっている」と、子どもをコントロールしようとする意識に気づくことがあります。その先には「してやったのに」という無力感の沼があると自戒しているつもりなのに。去年は子どものやさしさに出会って二つの詩が生まれました。

#### 「ひとつぶのキャラメル」

タめし くうヒマないままに  
 腹ペコ弁護士が 届け物  
 あなたはわたしを呼びとめて  
 「手を出して」とさりげなく…  
 言われて出した手のひらに  
 あなたはぽんと置きました  
 小さなひとつの包み紙  
 包みを破るとクリ色の  
 宝石みたいなキャラメルが  
 車のライトに光ります  
 口にふくめばその甘さ  
 口いっぱい広がって  
 疲れは消えて幸せの  
 百万馬力が胸に満ち  
 次の仕事へ走ります  
 あなたはパオの子 宝物

#### 「スイートポテトの歌」

今日朝から西東  
 車で走ってくたびれて  
 ぴあ・かもみーるに寄ったとき  
 あなたがくれたプレゼント  
 二つのひとくちスイートポテト  
 悲しいこともあったら  
 さみしいこともあったら  
 どれだけ涙をふいたたらう  
 あなたの小さなその両手  
 その手でつくったスイートポテト  
 スイートポテトのおいしさが  
 口いっぱい広がって  
 疲れは消えて走り出す  
 あなたはパオの子 やさしい子  
 涙が出ても笑って生きようよ

この人たちのやさしさに出会い、パワーをもらいながら、ときには私の非力な肩にでもつかまって傷ついた子どもたちも立ち上がる、そんなふうによさしさが広がる地域、社会を子どもとおとなのパートナーシップで創りましょう。